

学生のと時から家が欲しかったというKさん。

家を建てたお友達の家に行って「キレイな家」を見ても、「何か違和感を感じていた」。

その状態から今、『建築後1年経ってもまだ木の香りがする家』を手に入れられるまでの経緯をお聞かせ頂きました。

まずアーキ・プロジェクトをご存知になられたきっかけを教えてください。

まだ結婚前、5~6年前ぐらいに何かのメールマガジンで、「住まい情報のメールマガジンの配布が始まるよ」という案内を見たんですね。

まだ全然、家を建てる段階ではなかったですけど、実家がずっと賃貸だったということもあって私は学生の時から家が欲しかった。

家には興味があったから、「あぁ、じゃあちょっとこのメールマガジン見てみよう」という形で登録したのが最初のきっかけですね。

メールマガジンが届いてみると、「何かいい感じだな」というか、読んでいても面白かった。

「あっ、自分が探していたのはこういう感じだったのかな」と思いました。

探していたのはこういう感じだったのかなという具体的なはどういうことですか？

例えば、家を建てた友達のところにお邪魔したりとかして、新しい家を見ても「キレイだな」と思っても、「キレイだな」とか「いいな」とか思っても、自分の中で何かが違う感じがしていたんですね。

でも、何が違うかが、ずっと分かんなかった。

何か違和感があったというか。

新しい家だからキレイだし、いい感じなんだけど、「何かが違う」みたいなのがずっとあって。

それで、アーキさんのメールマガジンに「自然素材で家を建てよう」という文章だったりとか、「土壁」とか「木」とかの言葉が書かれているのを見た時に、「あっ、自分が探してたのがこれだったのかな？」という気がしましたね。

なるほど。実際に家を建てようと思われたのはいつぐらいなのですか？

メールマガジンを読み始めた時はまだ独身だったので、その後で結婚して。

最初は賃貸に入っていたんですけど、ひと段落着いてから、「じゃあ、家の事も考えて行きましょうか」ということで。

当時、リビングにアーキさんが講習会のお知らせを出していらっやったんですけど、あのメールマガジンの会社だということには気づいていたので、参加させて頂きました。

最初は頭脳化センターであった座談会。

建設関係の方と一般の方とが一緒にお話するような感じでしたね。

その時には具体的なことは決まっていなかったのですか？

いや、もうホントに1から、土地探しからだったので、全然分からないことだらけ(笑)  
なので、専門家の話を聞くのも1つの参考になるかなと思っていましたね。

実は座談会に参加する前には普通に住宅展示場にも行っています。  
その営業さんの話が「胡散臭いな」とか思いながら(笑)

すごく印象に残ってるのが、「うちは自由設計ですから」「自由設計ですから」って連発する営業さん。

例えば、リビングの一角に4畳半ぐらいのスペースを区切って、和室みたいなのを設けるプランなんかありますよね。

展示場ではリビングから30cmぐらいの高さに畳を敷いてあったんですけど、例えば「これをフラットにする事も出来るし、15cmぐらいにする事も出来ますし。うち自由設計だから何でも出来ますよ」みたいなことを言われるわけです。

押入れの段にしても「自由設計だから、押入れじゃなくてクローゼットみたいにする事も出来ますよ」と(笑)

「そうですね」って言いながらも、それも確かに自由設計の1つなんだけど、そこだけで鵜呑みにして、実際契約したらあととんでもない。

実際の間取りとか家の仕様とかになったら、「自由設計」っていう言葉からイメージするような事は起こらないんじゃないのかな？というような感じがしました。

これは多分、ずっとアーキプロジェクトのメールマガジンを読んでいたのでだと思いますけど(笑)

なるほど。そういうことを感じながらも住宅展示場に行かれていた理由はあるのですか？

展示場に行くのは単なる冷やかashiで、最初からハウスメーカーで建てるつもりはなかった。  
ただ、間取りのイメージとか、何にも無い状態で空想するよりは、イメージが掴めると思ったんですね。

まあ、展示場にある家は広いんであんまり参考にはならないんですけど、でも、1つ印象に残ったのが、タイル張りのお風呂。

普通はお風呂がユニットバスで、箱みたいなのをに入れてしまいますけど、どこかの展示場を見た家のお風呂は、ユニットバスじゃなくて昔ながらのタイル張りのお風呂だったんです。  
ユニットバスと比べて、「やっぱりお風呂の雰囲気が違うな」と。

だからうちのお風呂はユニットじゃなくて、タイル張りにしよう！と決めたんですけど、住宅展示場に限っていえばその参考にはなりました。

なるほど。その状態で座談会に参加されたわけですね？

そうですね。

土地がなかなか見つけられなかったので、「土地探しの事とかでも、相談出来るかな」と思って、座談会に参加しました。

そこで土地の探し方とか、銀行の融資の話も聞きました。

借り入れにしても借りた事ないから、全然分からない。

いくら借りられるのかも想像がつかなかったんですけど、座談会の後に銀行にも相談に行くことになりましたから。

その後も土地を探していたんですけど、なかなか決められずにいたんですね。

色々な不動産会社にも聞いてはいたんですけど、最後まで根気よく付き合ってくださったのは、アーキさんが紹介してくださった不動産屋さんだけでした。

土地探しに時間がかかったということですか？

普通の方って住みたい地区とかある程度決まって、そこから探したりとかあるみたいなんですけど、あんまり地区を決めてなかったのので、結局土地が決まったのは座談会の1年後ぐらいでした。

それも、土地が決まるちょっと前に、もう1回アーキさんに相談に行って、あんまり土地が決まらないから、「設計士さんに相談されたらどうか？」というアドバイスをもらってから。

自分たちで土地を見ても、ちょっと想像がつかない、分からないようなところでも、設計士さんに見ていただいたら、「この土地だったら、例えばこういう感じで家が建てれます」というアドバイスも出るだろうということでした。

それで、ちょうどそういうお話になった時に、「この土地良いかもしれないね」という土地があったので、すぐアーキさんに紹介して頂いた設計士さんにラフプランを起こしてもらった。すると「これならいけるかもしれない」というプランだったのでその土地に決めました

なるほど。その後はどのように進んでいったのですか？

土地が決まって設計士さんが決まって、その後は半年ぐらい設計士さんと打ち合わせをしました。

どんどん設計の仕様が決まって行って、次は工務店決めなければいけないということで、アーキさんに登録している工務店で、設計士さんが馴染みがあるところをいくつか紹介して頂いて、見積もりを見て決めました。

こちらとしてはあまり工務店の良し悪しもよく分からない。でも、アーキさんに登録しているんだったら「ヘンな仕事はしないかな」という感じはありましたから。

極端に言ったら欠陥住宅みたいな事は無いかなと。

欠陥住宅は怖いというか、実際身近でも聞いていましたから。

その家は、結構バタバタと建てた家だったらいいんですけど、住みだしたら色々と問題が出てきたらしくて、その問題が出てきた頃には業者は逃げていたという。

そういうことは無いかなと思って決めましたね。

なるほど。実際の家づくりにはどれくらいの期間がかかったのですか？

8ヶ月ぐらいですね。

今どきの家って3~4ヶ月で建ってしまうので、「やっぱり長かったなあ」という感じでした。

土壁にしたので乾かす時間がかかった(笑)

これは分かっていたことなので、「そりゃ、そうだね」という感じでしたけど。

でも、土壁にすると、やっぱり壁紙の部屋とは雰囲気が違う感じ。

やわらかい感じがします。

床も一般的な合板フローリングじゃなくて、無垢のパイン材を使っているの、やわらかい温かみのある感じがしますし、木の香りもする。

だから気持ちいいですよ。

もう家が建って1年過ぎていますが、大体友達が来て玄関に入ったら、みんな「木の香りがする」と言いますから。

もう自分たちは慣れちゃってるから分からないんだけど、「1年過ぎててもまだ木の香りするんだ」と思ってうれしいですね。

家を建てる前に、アーキさんの関係で自然素材というか、木で建てた家や土壁の家をいくつか見学させてもらったんですけど、その時に、それまで自分が吸ってた新築の家の臭いってというのは結局、「合板とかの接着剤の臭いだったんだな」ということに気づかされていましたから。

だからうちは木で作ったから、「やっぱり木の匂いだもんな」と思います。

なるほど。今、実際に家が建って、どんな感じですか？

多分、アーキさんに出会わなかったら、「普通の家を建てていたかもしれないな」と思います。普通の一般的な合板フローリングで壁紙の、普通の今どきの家を、何も分からないままに建てていたような気がします。

アーキさんからのメールマガジンとか、実際の見学会に行って情報が集められたし、設計士さんと知り合う絡みも無かったですから。

土地の探し方も参考になりましたしね。

だからね。今の家は、気に入ってますよ(笑)

旅行とかでちょっと長く家空けて帰ってくると、最初微かに「あっ、木の匂いがするな」と思いますし。

住んでいて快適ですね。

なるほど。本日は貴重なお話をありがとうございました。